

アカシア探険隊

M1・2012(夏)
～自叙伝の巻～50回 的川 泰宣氏
～JAXA名誉教授
東京アカシア会会長～

私が高校生だった頃

50回 的川 泰宣

中学3年生になり、進学先を決める時期のこと、1年先輩の伊賀健一さん(元・東工大学長)から広大附属が週5日制だと聞き、志望校を広大附属に決めました。

しかし土曜日でも日曜日でもテニス三昧という私の期待は、裏切られました。入学直後に出場した広島市の国体予選で準優勝したのに、次の週に福山市で開かれる県予選を目前にして、パートナーが出場を辞退。父親から「テニスをさせるために広大附属に入れたわけではない」と叱責されたのが原因でした。県予選に出られなくなった私はすっかりやる気をなくしてしまい、中学時代のテニスのライバルたちが、全国ランキングを駆け上がっていくのを見ているだけでした。

そんな私を生徒会に誘ったのは、1年先輩の川瀬博之さんです。テニスの練習にもあまり出ないでブラブラしていた私を、「エネルギーがありそうだな」と思ったそうです。こうして1年生の後半から生徒会の企画委員になった私は、2年時に生徒会長になって以来、ずっと生徒会づけになりました。6日制の廃止に踏み切った森戸辰男広島大学学長(元・文部大臣)相手に、団体交渉もやりました。高校生が権利意識に目覚めていった時代です。安保闘争の前哨戦としての勤評闘争が高校生レベルにも波及しつつありました。「自分たちの力で社会を変える」という社会

性が私のような人間にも芽生え、政治家の立会演説会などにも積極的に参加して議論に加わっていました。生徒会活動は、テニスに打ち込めなかった代償行動だったかもしれませんが、受験勉強一色で過ごす高校生活よりも、濃密で豊かなものでした。

充実した高校時代は、何と言っても「攻学寮」での寮生活のおかげ。当時は呉から広島まで呉線で50分ほど。入学当初は実家から通っていましたが、旧制高校時代の寮生活に憧れていた私は、寮に入りたくてしょうがなかった。そこで一計を案じて、帰宅後に「疲れた、疲れた」とぼやく作戦に出たのです。案の定、私の身を案じた母が寮の存在をつきとめ、1年生の2学期から、念願の寮生活を始めることができました。

寮生は40人ぐらいで基本的には3人部屋。中学生も数人いて、他学年との同居生活はなかなか得がたい経験。入寮直後、いたずら坊主の中学生を体の大きな先輩が捕まえて、2階の窓から逆さ吊りにしたのには度肝を抜かれました。この中学生を深夜、熟睡したところを戸板で風呂場に運んだこともありました。水を抜いた浴槽に寝かせて蓋をし、後は息をこらして待つだけ。目を覚ました彼は驚いて跳び起き、蓋に勢いよく頭をぶつけて大騒ぎ。「目を開けても真っ暗なんだから!」

悪戯の標的にされるのは、舎監の先生も同じ。先生の寝こみを襲い、鼻にエンドウ豆を詰め込んだことがありました。煎って固くなったものを使いま



青春を謳歌する寮生たち(1959年)



P r o f i l e

1942年2月23日広島県呉市生まれ。1960年広大附属高校第50回卒。東京大学・同大学院博士課程、東京大学宇宙航空研究所、宇宙科学研究所を経て、JAXA(宇宙航空研究開発機構)へ。日本最初の人工衛星「おおすみ」は大学院生として、日本最初の地球脱出ミッションであるハレー彗星探査は中堅若手として、最近話題になった「はやぶさ」は対外協力室長として取り組んだ。2008年、NPO「子ども・宇宙・未来の会」(KU-MA)を設立。日本の宇宙活動の語り部であり、「宇宙教育の父」と呼ばれる。現在、JAXA名誉教授、呉市の「やまとミュージアム」名誉館長、横浜こども科学館館長など。東京アカシア会会長。

した。そうかと思えば、深夜、数人で舎監の先生の部屋の床下に潜り込んで、ノコギリやカナヅチで音を立てながら苦しそうな呻き声を発したことも——真夜中にどこからともなく不気味な音が、かすかな振動を伴って聞こえてくるのですからたまりません。被害にあった先生は、翌日は眠くて仕方がなかったはずです。

寮生活では、高校生にあるまじきことも数々ありましたが、舎監の先生方との信頼関係は極めて厚く、「こいつらはこんなことをしていても、大局的には大丈夫」と思われていることが、こちらにはよく分かっていました。若気の至りは誰にでもあるもの。最後は、気持ちのつながりが生命線ということを教えられました。

こんなやんちゃな生活の一方で、本もよく読み、明け方まで意見を戦わせることもよくありました。いくらか背伸びをしつつ、力いっぱい寮生活、高校生活でした。

合唱班 第6回 定期演奏会

日時: 2012年8月4日(土)

開場: 14:30 開演: 15:00

場所: 広島大学附属中・高等学校講堂

曲目: ヴィクトリア作曲「15のモテット」より、「fight」、
「信じる」、高野喜久雄作詞・高田三郎作曲「水のいのち」他



管弦楽班 第36回 定期演奏会

日時: 2012年8月11日(土) 開場: 16:30 開演: 17:00

場所: 上野学園ホール(旧郵便貯金ホール・ALSOKホール)

曲目: プロコフィエフ: 交響曲第7番「青春」嬰ハ短調全曲、チャイコフスキー: 歌劇「エフゲニー・オネーギン」より「ボロネーズ」、バーンスタイン: 「ウェストサイド物語」より 他

※会場に駐車場はございませんので、アストラムラインなどの公共交通機関をご利用下さい。

♪ 皆様、是非お越し下さい! ♪ <入場無料>



新郎の栗栖智幸くんに手をとられる新婦役の筆者(左)(1959年)

広大附属は、運動会や文化祭となると、格別に張り切る校風です。われわれは何をやるにもまとまりのある学年で、Ⅲ年生の時の運動会が特に印象に残っています。当時の三好稔(みのる)校長をモデルに、「三好掄(ひねる)の一生」を仮装行列に仕立てた出し物を考えました。三好掄の誕生から始まり、最後は棺桶に入って退場する筋立てでした。演出担当者の指示で、私は先生の結婚シーンでの花嫁役。日焼けした顔にお白粉を厚くぬりたくってメーキャップ。ウェディングドレスは、女子生徒が教室の白いカーテンを引っ剥がして縫い上げ、うまいこと着付けてくれました。出番前に運動場ですれ違った担任の藤原茂先生も、私と気づかない変身ぶり。もっとも翌日にはカーテンの一件がばれて、こっぴどく怒られましたが。三好校長は生徒に人気があり、仮装行列は大成功。ところがいささかやり過ぎた面もあり、翌年の仮装行列は廃止されてしまったとか。運動会で最も盛り上がる伝統的なイベントだっただけに、後輩たちには申し訳ないことをしたと思っています。

広大附属は、クラブ活動の中でもサッカーだけが突出して強く、校技のようになっていました。体育の授業もサッカーが多かったのです。そうすると、クラスに全国大会レベルの選手が何人もいるのだから、運動神経には自信のあった私もさすがにかないません。後に日本代表となる桑田隆幸は同じクラスで、1年下にやはり日本代表の小

城得達、桑原楽之、船本幸路らがいました。小城や桑原は、釜本邦茂・杉山隆一たちとメキシコオリンピックで銅メダルを獲得したときのメンバーです。

彼らが入ってきた1959年には全国高校サッカー選手権大会で準優勝しています。私は応援団長として西宮球技場でエールを送りましたが、一方では生徒会長として、クラブ活動の整備に乗り出しました。強いサッカー部の予算だけが飛び抜けて多い状態を是正し、部員の数に比例して割り当てようとしたのです。当然のように、サッカー部員や関係者から猛反発をくらいました。でも、私も簡単には引き下がりませんでした。「高校のクラブ活動は勝つためのものではない。サッカー部は強くて伝統もあるのだから、先輩から寄付をもらえばいい」そう言って改革を断行しました。桑田や小城、桑原らが連れ立って私に文句を言いに来たのをよく覚えています。

高校生活を思い出すといろいろなシーンが脳裏に浮かんできますが、やはりあの当時の自分という人間を育てくれたものの中で最も強烈な要素は寮生活ですね。限りなく素敵な体験でした。復活させるべきです。私は今年古稀を迎えました。この歳になって、寮生活で得たものの凄さ、有り難さがしみじみと心に沁み出てきています。広大附属に「学生寮の建設」を進言したいと思っています。

大学に入って専攻を決めたのは2年生の秋です。大学構内は「安保闘争の敗北」という退廃的な雰囲気満ちている中、「自分が生きているのは大きく見てどういう時代なのか」を見つめることが第一と考えました。そこで走馬灯のようによぎっていったのは、幼い頃の瀬戸内の夜釣りや眺めた星ぼし、初めて天体望遠鏡を覗いた時に飛び込んできた月面の陰影を伴った素晴らしい姿、中学生の頃に聴いたペンシルロケットのニュース、高校時代のスプートニクでした。スプートニクは肉

眼で見ました。「ああ、自分は人類が宇宙へ進出して行く時代に生を受けているのだ」——この思いが、私に宇宙を選ばせました。天文学もいいと思いましたが、それよりも「進出」ならばロケットや衛星だろうと考え、新設された宇宙工学へ。

そして大学卒業後の人生のほとんどを宇宙分野の現場で過ごしてきました。日本最初の人工衛星「おおすみ」は大学院生として、日本最初の地球脱出ミッションとなったハレー彗星探査は中堅の働き手として、最近大きな共感を呼んだ「はやぶさ」は対外協力室長として、大好きなことを一生懸命にやる生活でした。

でも何か満たされないものがあります。それはやはりこの国もこの星も不幸な人々で溢れていることが原因だと思います。小学校の5年生の頃、「この世のすべての人々が幸せになるといいなあ」と、そういう社会に憧れ、そういう社会にするためにこの身を捧げたいと心から思っていた時代がありました。その頃の気持ちに立ち帰って、今は子どもたちが思い切り輝ける舞台を準備すべく、「宇宙教育」という分野に乗り出しました。これを残りの人生は続けるでしょう。そのためにKU-MA(子ども・宇宙・未来の会)というNPOを立ち上げました。インターネットを覗いて、その活動に興味があればぜひ参集してください。

ではまた、アカシア会でお会いしましょう。



広島市の寮から呉まで歩いて帰った時に2級下の野村晋作くん(左)と(1959年)

空気調和、給排水衛生、工業用配管



株式
会社

大方工業所

本社/〒732-0802 広島市南区大州二丁目15-8

電話 (082) 282-4301 FAX (082) 286-0603

E-mail: info10@okata-k.co.jp

http://www.okata-k.co.jp/

営業所/宇部市・下関市・北九州市 支店/福岡市

道後・松山市

見本
A 8888

シカクいだけでは
ありません。

自動車ナンバープレート及び諸標識製造、グラフィック広告製作・施工

大正3年創業



巢守金属工業株式会社

広島市南区出島1-34-7 TEL(082)251-8307